

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071401097
法人名	有限会社 中山メディカル・サービス
事業所名	グループホームおあしす ありた
所在地	福岡市早良区有田6丁目2-5 (電 話) (092) 801-1122

評価機関名	福岡県社会福祉協議会				
所在地	福岡県春日市原町 3－1－7				
訪問調査日	21年	1月	23日	評価確定日	21年 3月 3日

【情報提供票より】 (平成20年 12月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 10日				
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27	人	
職員数	29 人	常勤	15人	非常勤	14人 常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての ~ 1,2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (200,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 420 円	
	夕食 520 円	おやつ 110 円	
	または1日当たり	円	

(4) 利用者の概要 (平成20年 12月 30日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	6 名	要介護2	9 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.4 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山整形外科医院、油山病院、牟田病院、前田歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は団地・高校に隣接し、近くにスーパーもある静かな住宅地の一角にある。1階にデイサービスが併設され、グループホームは1階に1ユニット、2階に2ユニットがあり、それぞれの管理者のもと、特徴を活かし、ケアに取り組んでいる。母体は医療法人であり、他の診療科の往診も確保されて、医療相談体制は整っている。開設当初より近隣の幼稚園・小学校・高校等との交流が行われ、チャリティーバザーでは地域との協力と交流を図っている。職員は夜間の緊急対応のため順次、応急手当普及員の講習会に参加し、利用者の安心にも繋がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
重点項目①	前回評価では改善点は無かったが、ユニット会議で自ら課題を見出して日頃から話し合いを持ち、改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) 各ユニット毎に、ユニット会議で管理者を中心にして職員全員で話し合い、意見を出し合って自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6) 運営推進会議を定期的に開催し、サービスの現状や評価の取り組み等について話し合っている。地域へのチャリティーバザーの呼びかけは運営推進会議を通して行い成功を収めており、次の地区夏祭りは、事業所の敷地を利用して貰う事が予定されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部8, 9) 家族会を開催し、利用者・職員を含めた交流・親睦を図り、意見・要望が聴ける場になっている。第三者相談窓口については、明文化し、契約時に説明を行っている。
重点項目④	運営推進会議、自治会を通して地域清掃活動等の地域活動に積極的に参加している。年に1回、地域住民の協力を得てチャリティーバザーを開催し多くの地域の人々との交流を行っている。近隣の幼稚園・小学生・高校生の訪問や介護福祉士養成校の実習生、ボランティアも受け入れている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に、地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼やユニット会議時に理念を確認し、その実践に向けて日々のケアと意識の統一に取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議、自治会を通して地域清掃活動等の地域活動に積極的に参加している。年に1回、地域住民の協力を得て「チャリティーバザー」を開催し多くの地域の人々との交流を行っている。近隣の幼稚園・小学生・高校生の訪問や介護福祉士養成校の実習生やボランティアも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が中心になり、ユニット会議で職員間で話し合い集約している。前回評価では改善点は無かったが、ユニット会議で自ら課題を見出して日頃から話し合いを持ち、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行われ、現状や今後の活動計画を報告して、委員からの意見や要望を聞き取る努力をしている。チャリティーバザーの呼びかけは運営推進会議を通して行い成功を収めており、次回の地区夏祭りは、事業所の敷地を利用して貰う事が予定されている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、行政担当者と報告・相談等で、日常的に連携を図っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員はその資料を基に会議の中で伝達講習を行い、全職員での知識の共有化を図っている。必要な家族には情報提供をし説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各ユニットで独自の便りを月1回発行し、手紙や写真も手渡しや郵送している。緊急時には家族に電話で状況報告や連絡を行っている。金銭管理について毎月報告を行い、家族から確認の署名・押印を貰っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や意見箱を設けている。家族の来訪時に声かけして、積極的に意見等を聞き取るよう努めている。第三者相談窓口については、明文化し、契約時に説明を行っている。担当が家族の来訪時不在のこともあるので、家族からの要望で連絡帳を作成し、連絡要望をより確実なものにし利用者の処遇改善に繋げている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長・管理者は職員から個別に話を聞いたり、コミュニケーションを十分図る等、離職を抑える努力をしている。やむを得ず離職する際は、利用者への影響を最小限に抑えるため引継ぎ期間を十分にとり、他の職員で利用者と十分にコミュニケーションを図り、フォローに努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢で採用対象から排除しないように公平性を保っている。また、教育訓練、資格取得等、職員の自己実現が保証されるよう、安心して働ける職場環境を目指している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修を受けた職員は会議で伝達講習を行い、知識・意識の共有化を図っている。事業所には人権テキスト・パンフレットを整備し、研修記録もあり、いつでも閲覧できる体制である。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、全職員が日常的に学ぶことができるよう研修情報の開示を行い、必要な職員には計画的に研修への参加機会を設けている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者ネットワークに参加し、グループホーム交流会・研修会等で親しくなった4カ所程の施設とお互いに実習等を行い、知識と技術の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事業所の見学や体験入居、自宅訪問・病院訪問、ショートステイ利用を行い、家族にも相談しながら馴染みの関係を築き利用できる工夫をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除等を共に行い、料理の場面では味付け等利用者から教えてもらう場面が日常的にある。花壇兼菜園を作り、花を植えたり、野菜作りを利用者・職員で楽しむなど、支え合う関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で一人ひとりと話す時間を少しづつでも設けるように努め、思いや希望を把握し、家族からも情報を得て利用者本位の支援に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の思いや意向及び職員の気づき・意見を取り入れて作成している。家族へ説明を行い、同意の押印を貰っている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6カ月に1回の介護計画の見直しを行い、3カ月毎の評価と利用者の状態変化や状況に応じて随時見直しも行い、家族へ連絡している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は、利用者を見舞いながら本人・家族・医療機関と連携をとり、可能な限り早期退院に取り組んでいる。通院や送迎等は本人や家族の状況に応じて必要とされる支援には臨機応変に対応している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の週2回の往診を基本に医療支援を行い、歯科等の往診も定期的に行い受診を支援している。かかりつけ医へ通院・受診は家族にお願いしているが、本人・家族の状況で職員の付き添い等柔軟に対応している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のあり方については職員間で共有されており、関係者との協議・家族への説明もなされている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修・ユニット会議で職員の意識化を図り、生活場面での声かけやケアについてはプライバシー確保に心がけ、必要時は居室で対応している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調・状態等に配慮しながら、その日その時の気持ちを大切に支援している。好みのテレビ番組のある人は遅くまで視聴をサポートしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に準備や食事、片付けを行っている。食事は同一テーブルで利用者と同じ物を和やかに楽しんでいる。食材発注・献立は各ユニットで行い、利用者と食材の買い物をし、菜園で収穫された野菜も食卓に上ることがある。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望等に合わせて柔軟に対応している。入浴拒否については臨機応変にタイミングや声かけで対応し、ゆっくりと入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握しており自然と役割も定着し、菜園・花壇の手入れ、食事の配膳・片付け、洗濯物たたみ、ぬり絵等、楽しみごとを含めて一人ひとりの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望または天候に配慮して、概ね毎日の散歩、週1～2回の買い物、月1～2回のドライブ、3ヶ月1回程の外出等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠してない。職員は利用者の外出傾向等を把握しており、出入りのドアに鈴を付けるなどの工夫をし、見守りや付き添いを行っている。近隣の店・スーパーには協力を得ている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備している。年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し、運営推進会議を通じて地域住民への参加協力の呼びかけを行っている。また、非常用食料や飲料水、備品等を準備している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量の記録はあるが、水分摂取の記録は、全員分あるユニット、必要な一部利用者の記録があるユニット、日常的に把握は行われているが記録がないユニットに分かれている。また、定期的に栄養士のチェックを受け、栄養管理に努めている。	○	全員分の水分摂取量の記録がないユニットは、一人ひとりについて、チェック表等で記録してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者の作成の絵や季節の花が飾られ、テーブルや椅子・ソファが置かれ家庭的な雰囲気配慮している。テレビ等の音量も不快感はなく、眩しくならないようカーテン等で採光の調整がなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具、小物や仏壇が持ち込まれており、家族の写真や季節の花が飾ってある。利用者が作成した趣味の作品なども飾られ、その人らしい個性が感じられる空間になっている。		

※ は、重点項目。